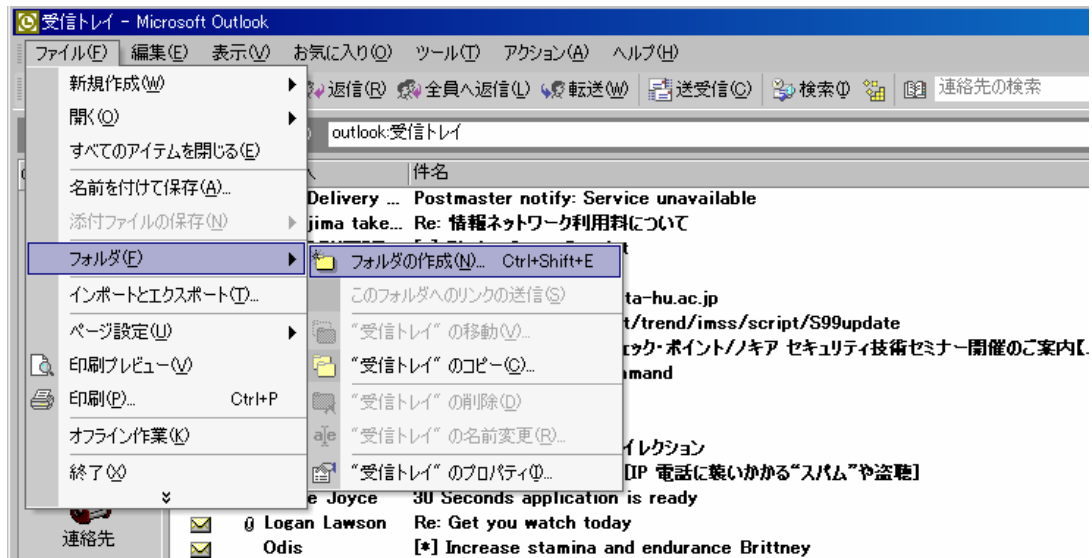


OutLook での spam メール振り分け設定

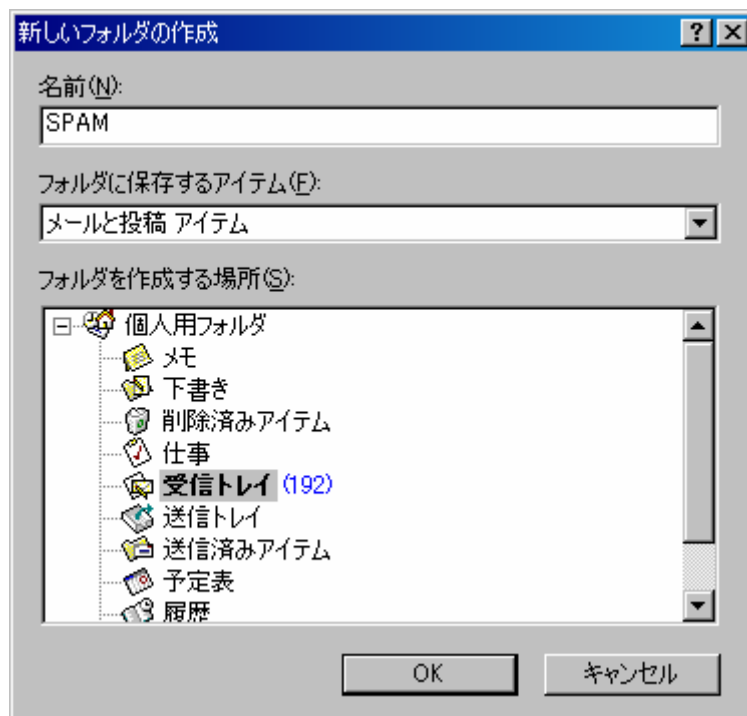
Step.1 : spam メールを入れるフォルダーを作る

「ファイル」 - 「フォルダの作成」を選択



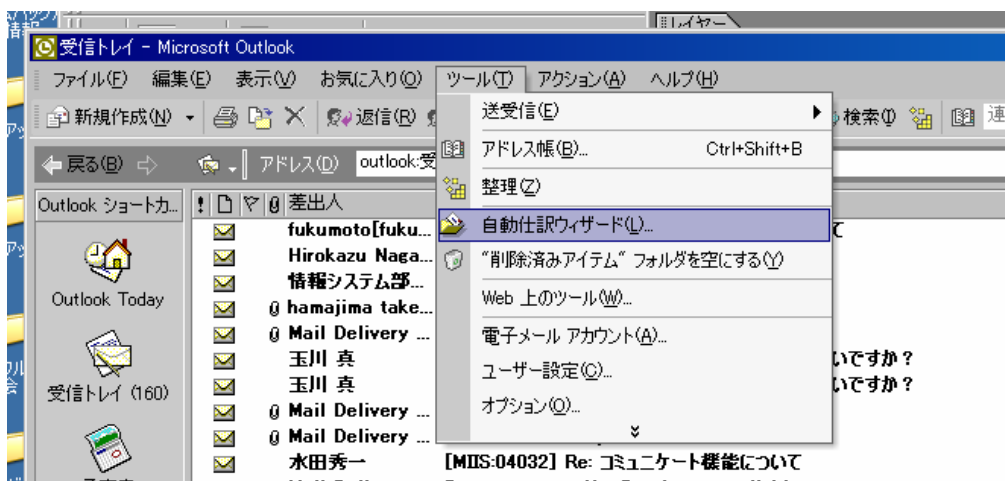
名前： SPAM

フォルダを作成する場所には 受信トレイを選択

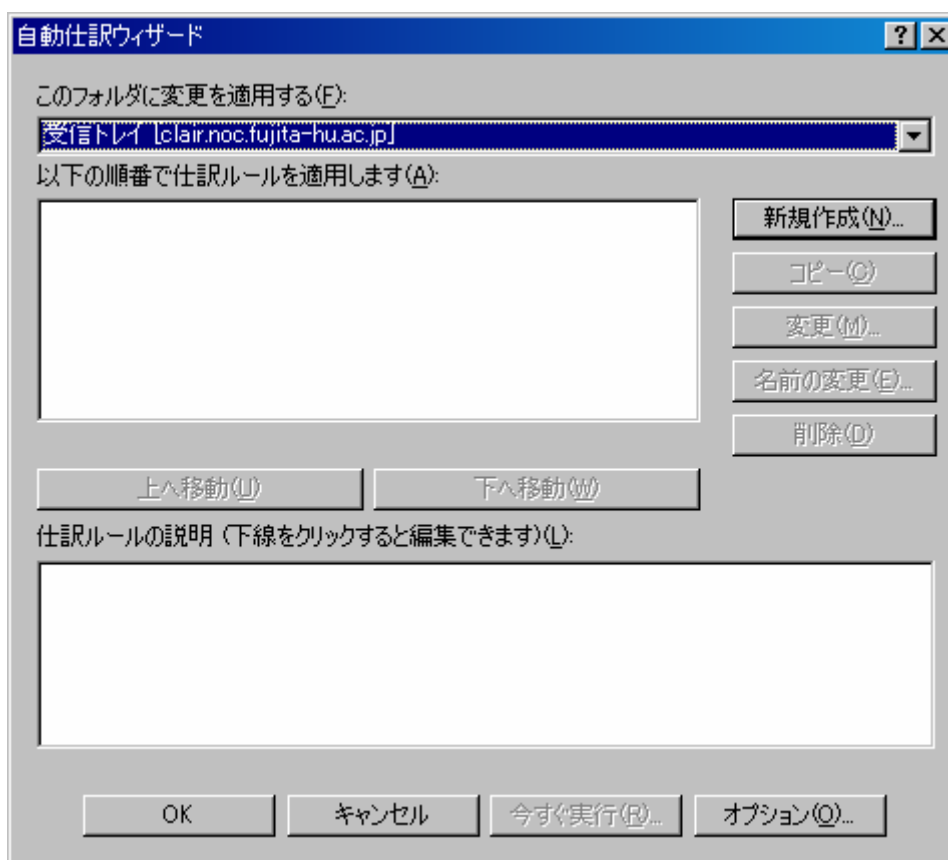


Step.2 : フィルターの設定をする。

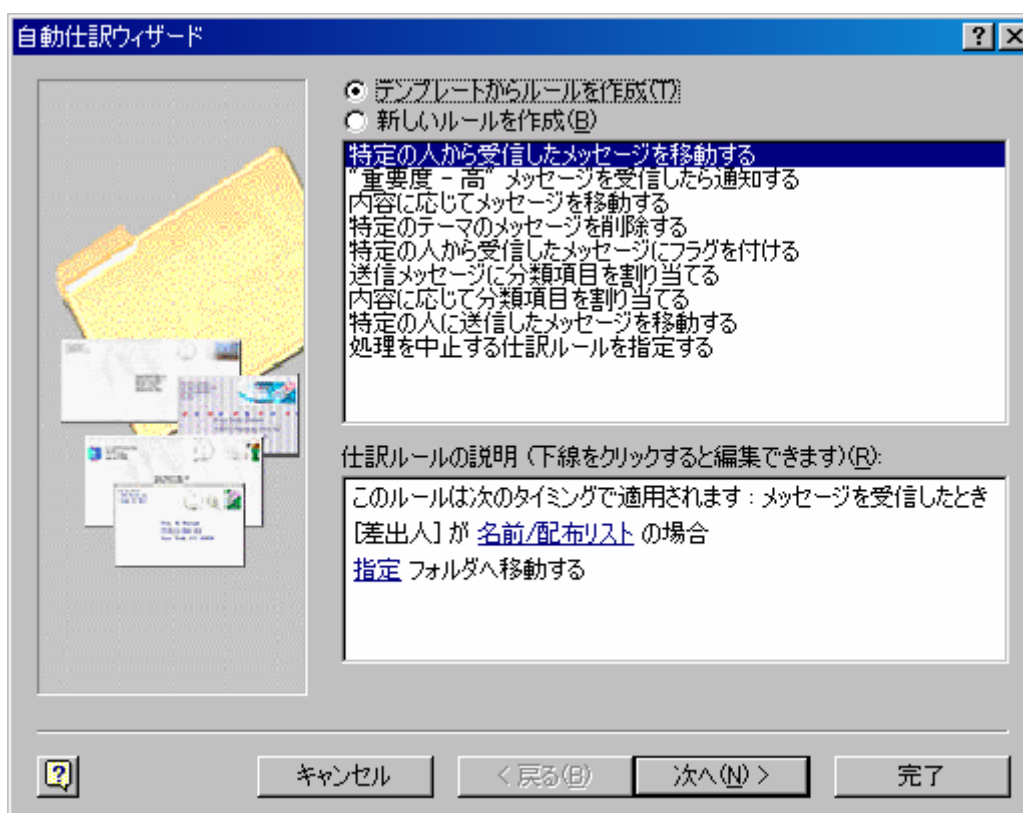
「ツール」 - 「自動仕訳ウィザード」を選択する



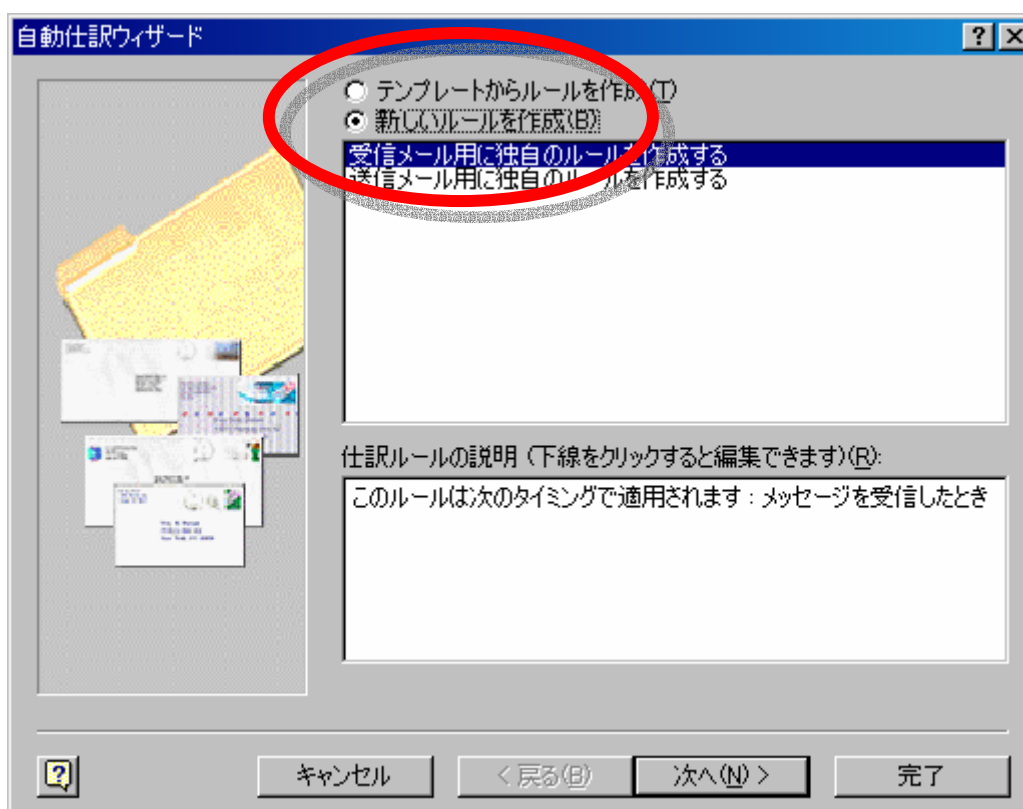
「新規作成」ボタンを押す



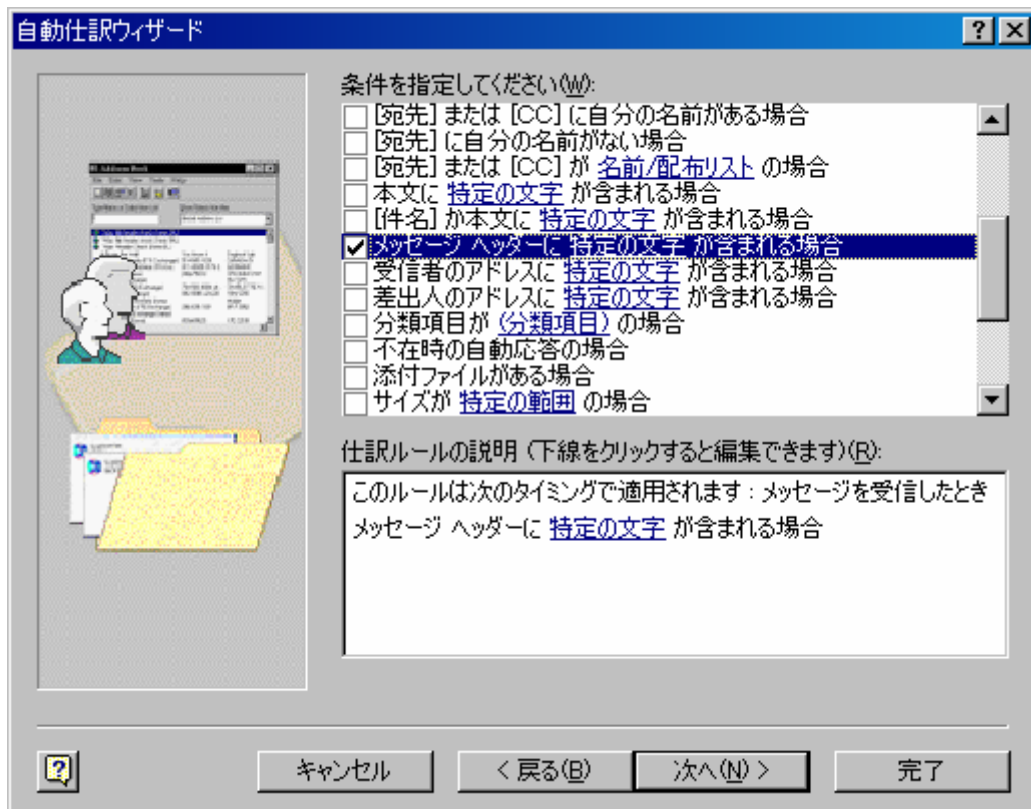
下のウィンドウが現れる。



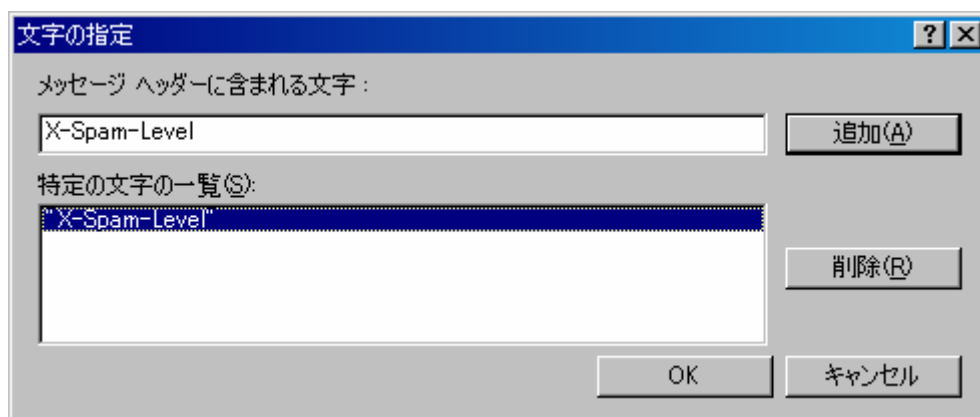
新しいルールを作成を選択



「条件・・・」欄から、
「メッセージヘッダーに特定の文字が含まれる場合」
をチェック付けする。

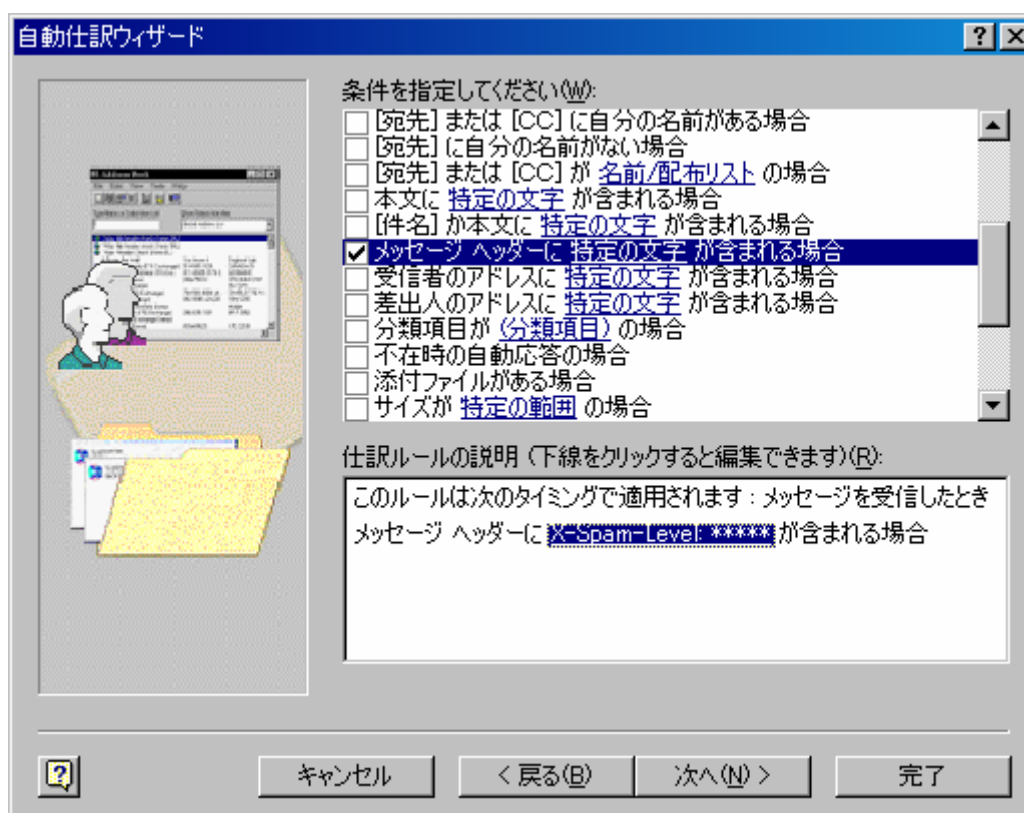


すると、ウィンドウ下部の仕訳ルールの説明に「特定の文字」が
クリックできるようになるので、これをクリックする。



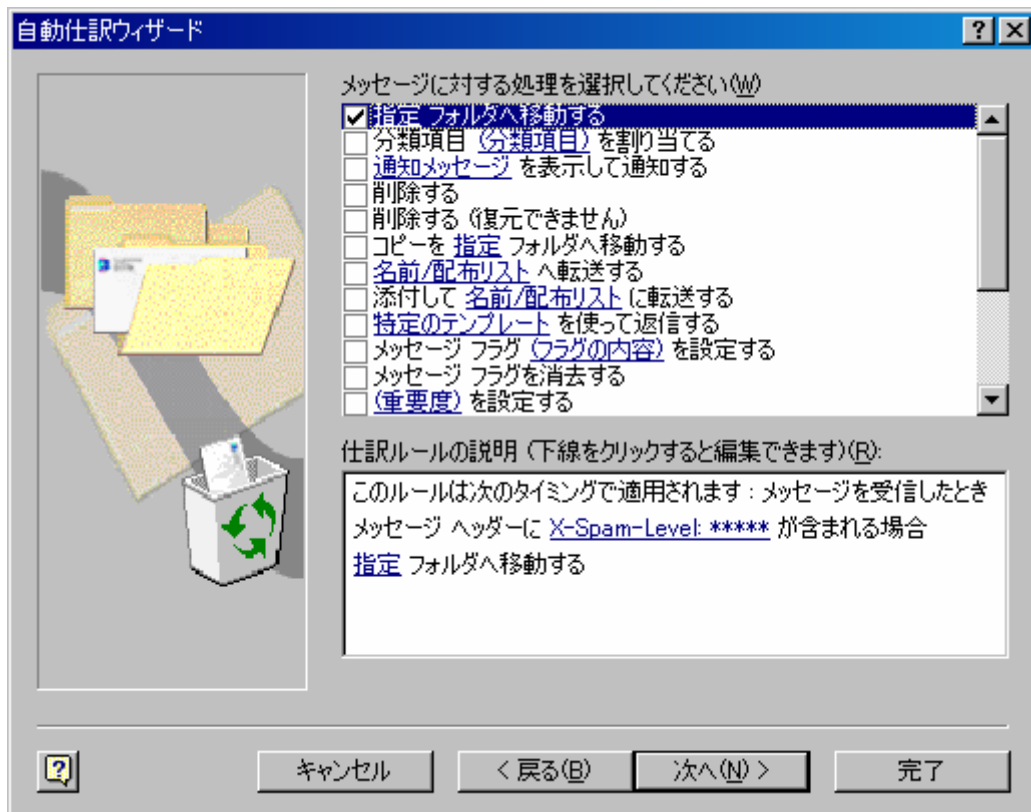
「メッセージヘッダに現れる文字」に、X-Spam-Level: *****
を入力する（*マークの前には半角のスペースが必要）

OK を押すと、表示が少し変化する(先ほど入力した X-Spam-Level: ***** が現れる。



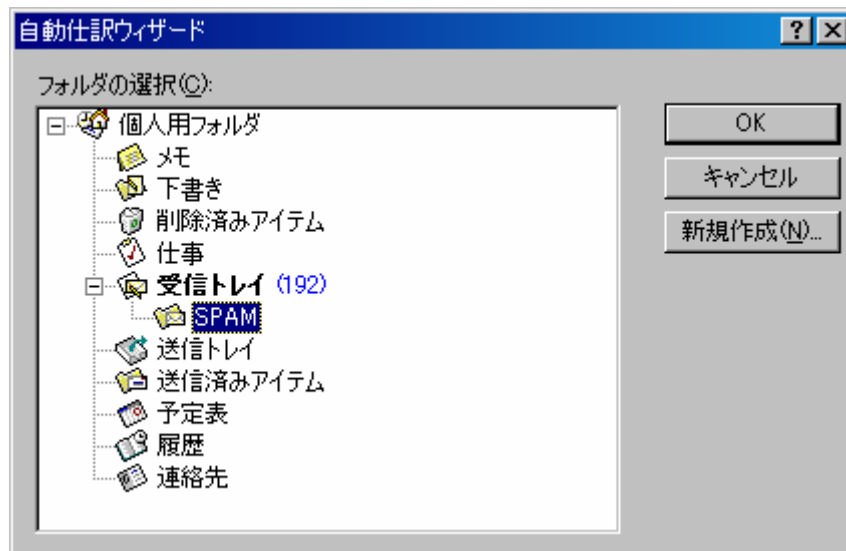
「次へ」を押すと、

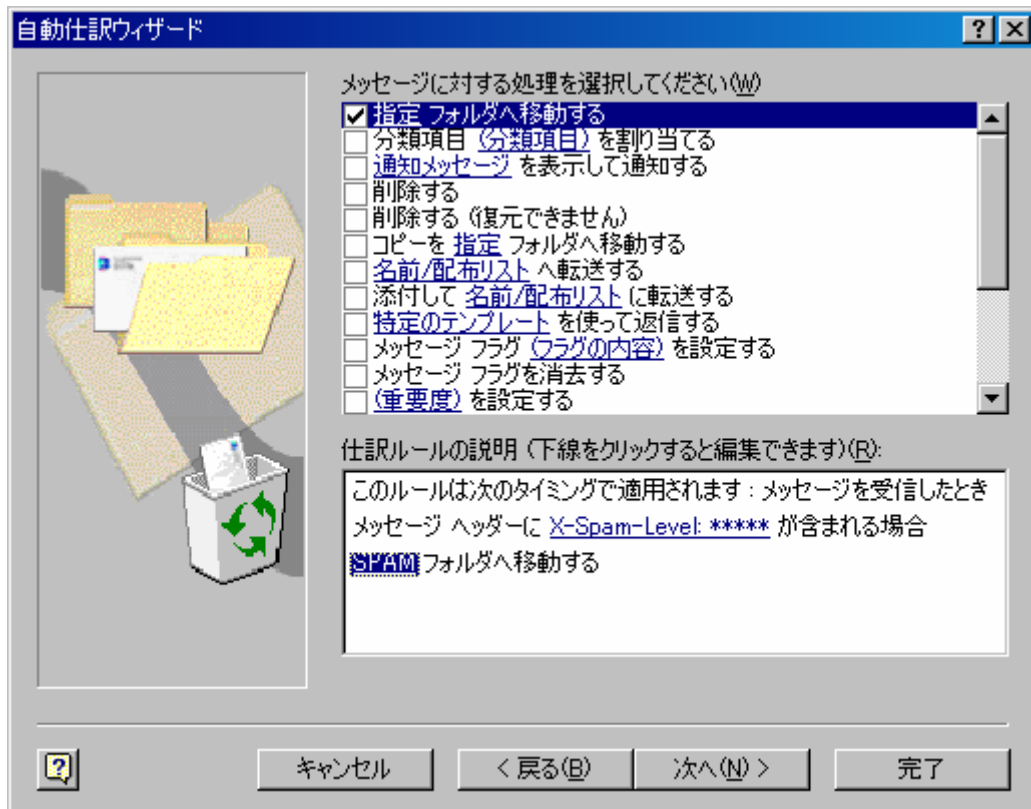
「メッセージに対する処理を選択してください」に変わるので、
「指定フォルダへ移動する」にチェックを付ける。



すると、ウィンドウ下部に、「指定」の選択肢ができるので、これをクリック。

SPAM フォルダを選択する（受信トレイ前の + マークを押す）

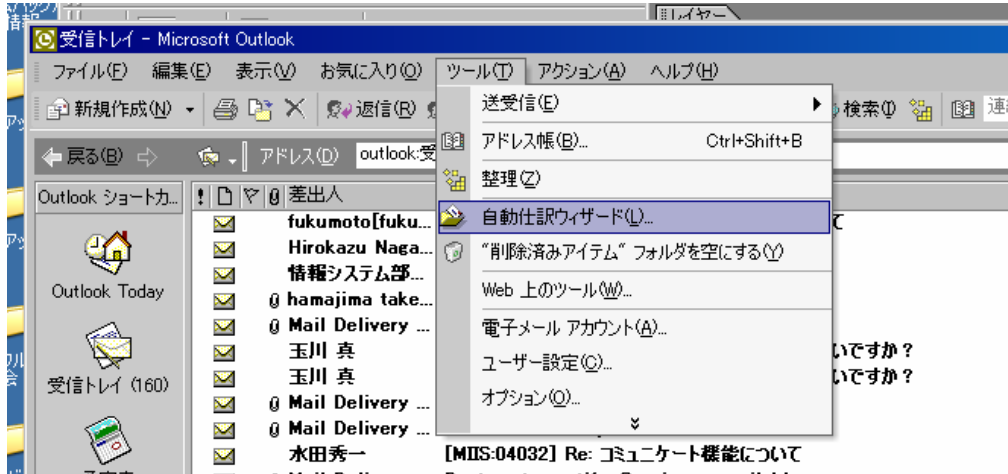




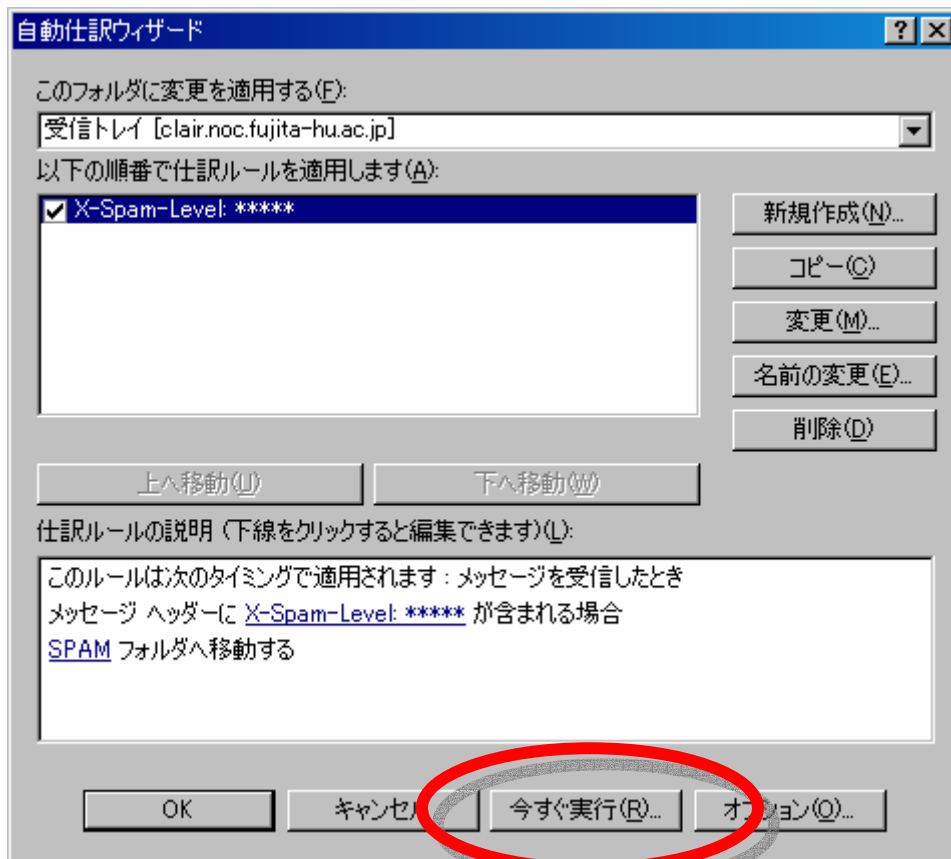
選択した SPAM フォルダーが表示される。

Step.3 : フィルターの適用

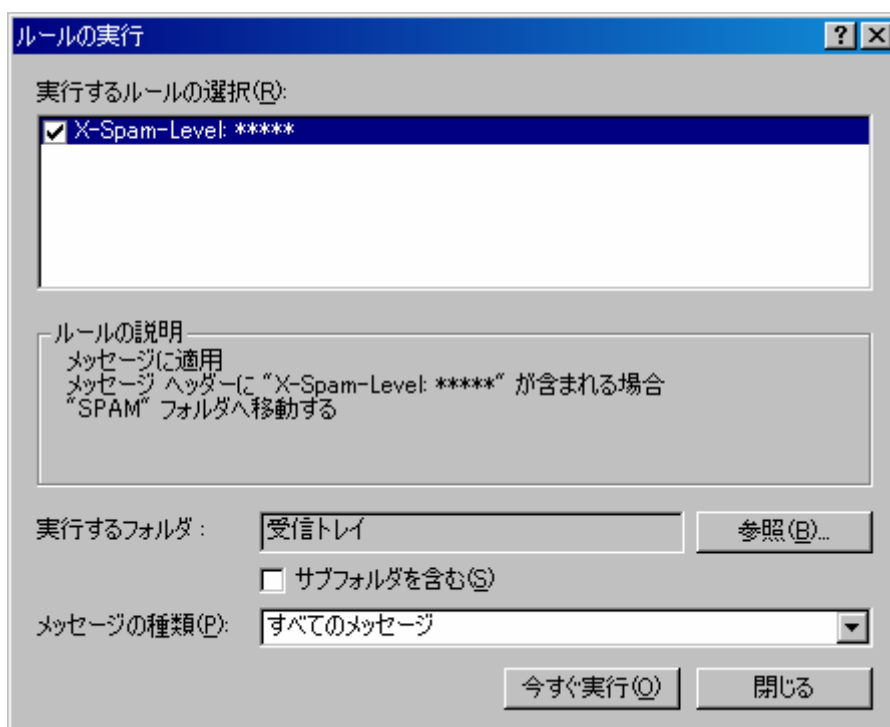
フィルター操作を行う場合には、
「ツール」から、「自動仕訳ウィザード」を選択



X-Spam-Level: *****の前にチェックを付け、下の「今すぐ実行」を押す



さらにウィンドウが変わるので、ここでも
X-Spam-Level: *****の前にチェックを付け、下の「今すぐ実行」を押す



これで振り分け処理が行われる。

Step.4 : 今後

将来的には、spam メールと判断した際、題名欄に[*]を入れることを検討しています。
その場合には以下の設定でメールを自動的に移動させることもできます。

その際の設定差異部分

